

7章 成果をまとめ・発信する

1. 活動の成果をまとめ、発信するよい方法等あればアドバイスしてください。

体験後、その成果をまとめたり、表現し、先生や地域の支援者に発表・報告することは、子どもたちが活動を自分のものとし、新たな活動につなげる上で重要な意味を持ちます。次に、体験をまとめ、発表する際の参考例をいくつか示します。

(1) 新聞・ホームページ等を作成し、地域や全国に活動成果を情報発信

一般的な取り組みとして、活動結果を壁新聞やかかわら版としてまとめたり、ホームページとして表す活動があげられます。壁新聞やかかわら版などは、先生や保護者、支援してくれた農業関係者等を対象とする地域内における情報発信、ホームページなどは全国の農業・農村体験に関心を持つ広域層への情報発信に適しています。

(2) 学習発表会、地域交流会、コンクール等における発表

活動後、学習発表会や地域交流会を開催し、活動の成果を発表する例も多く見られます。こうした発表会は、先生や保護者だけでなく、地域の支援者に対して行うことで一層、活動が深まることが期待できます。

発表の際、スライドやビデオ等を活用し現場の臨場感を伝えたり、まとめのレベルから一步進めて、紙芝居や劇づくりなど表現に高めているケースも見受けられます。また、コンクール等を開催することにより、より子どもたちの主体的、意欲的な取り組みを促す方法もあります。

(3) 収穫祭、学校祭、直売所等での販売をとおして評価を実感

もう一步進んだ、活動成果の発表・評価の機会として、子どもたちが考えた特産品や育てた農産物を収穫祭、学校祭等の機会での販売等の活動とする方法があります。

こうした活動をとおし、子どもたちは、農産物等が流通、消費されることにふれ、「農」の体験から「農業」の体験に近づくこととなります。

活動では、消費者と直に接し、ものを作って売ることの大変さ、しかし、相手が求めるものを提供し喜ばれたときのやりがいを体感するなど、本来的な意味での「労働」体験の機会となるでしょう。

事例 ユニークな事後学習の場としてのコンクール活動「チビッコ農業寺子屋」

～JA福井中央会

本事例では子どもたちが農作業を体験するだけでなく、体験をグループで表現し、発表するといったユニークな事後学習の場が設けられ、体験がより豊かなものに高められています。

■活動の概要

J A福井中央会では、県下の小学校児童を対象に年間を通して農業について取り組んだ体験活動に関するユニークな農業体験の発表会「チビッコ農業寺子屋」を平成2年度から11年連続で開催しています。

そこでは、児童自身がパソコンやプロジェクターを活用したり、寸劇による発表などがなされ、子どもたちが農業・農村体験にどのように取り組んだか、何を感じたかなどが発表されています。(平成11年度は県内25の小学校が地元JAを通じて本事業にエントリー)



寸劇による発表風景

農業・農村体験の活動内容にしても、最初は田植えや稲刈りだけだったものが、回を重ねるにしたがい、作目の種類が広がり地域特産の赤カブラやそばの栽培が取り入れられたり、朝市における販売活動、地域のお年寄りと一緒にいった収穫祭、伝統野菜を使った料理づくりなど、様々なものが行われるようになりました。

■取り組みの成果

本事業は当初、農業・農村体験を通じて子どもたちの農業への理解を促す農業関係者からのアピール的性格が強いものでしたが、次第に農業・農村体験に取り組むだけでなく、子どもたちが体験で感じたり、思ったことを工夫をこらした表現にすることで、本年度よりスタートした「自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること」などを旨とする「総合的な学習の時間」と共通した目的を有する取り組みとなっています。その結果、現在、農業関係者だけでなく、教育関係者から教育的な取り組みとしても高い評価を受ける活動となっています。



舞台装置にも様々な工夫が・・・